

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	栃木県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	佐野市立植野小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	4	4	4	1	25	38
児童数	142	146	158	145	139	136	2	868	

研究の概要

1. 研究主題

個に応じた指導方法・指導体制・指導内容の工夫改善 ～ 確かな学力の向上を目指して～
--

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年生 算数 非常勤講師とのチーム・ティーチングが実施可能なため</li> <li>・ 2～4年生 算数 児童の理解に差が出やすい教科であることと、学校としての以前からの研究実践があるため</li> <li>・ 5、6年生 国語・社会・算数・理科 子どもの発達段階を考慮し、中学校へのスムーズな移行を図るため</li> </ul>
--

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>主題 個に応じた指導方法・指導体制・指導内容の工夫改善 ～ 確かな学力の向上を目指して～</p> <p>研究の見通し(仮説)                  発展的な学習や補充的な学習など、個に応じた指導のための教材開発を行い活用することによって、児童自らが課題意識をもち進んで学習に取り組むことができるであろう。                  少人数による個に応じた指導を工夫改善したり、学習支援ボランティアを活用したりすることによって、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着や、思考力・判断力の向上、表現力の向上等を図ることができるであろう。                  教科担任制を導入することによって、教師の専門性や得意分野を生かすことができ、教材開発や評価等に関する研究をより深めることができるであろう。                  評価規準を作成し、学習の状況を確認に見取り、評価を生かした指導を工夫することによって、より効果的な個に応じた指導が可能となるであろう。</p> <p>* ～ までの総合的な取組によって、個に応じたきめ細かな指導が充実し、確かな学力の向上を図ることができるであろう。</p> <p>研究内容・方法                  個に応じた指導のための教材開発                  ・ 学習意欲を高めるための工夫等                  個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫                  ア 少人数による個に応じた指導                  ・ 算数科を中心に、少人数による個に応じた指導の在り方について研究する。                  1年 非常勤講師を含めた2名または3名の教師による協力的な指導                  2年 学級の枠を外して、4学級を5コースとする少人数指導                  3・4年 学級の枠を外して、2学級を3コースとする少人数指導</p>
--------	---

	<p>単元や学習内容に応じて実施</p> <p>イ 教科担任制の実施</p> <p>5・6年 国語・社会・算数・理科等の教科担任制</p> <p>ウ 学習支援ボランティアの活用</p> <p>評価方法の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 評価規準の作成と活用</li> <li>・ 評価方法の工夫（評価補助簿の作成と活用等）</li> <li>・ 評価を生かした指導の在り方の工夫</li> </ul>
--	---

平成15年度	<p>主題 個に応じた指導方法・指導体制・指導内容の工夫改善 ～ 確かな学力の向上を目指して～</p> <p>研究の見通し（仮説） 個に応じた指導のための教材開発とその工夫改善により、思考力・判断力の向上や、表現力の向上を図ることができるであろう。 少人数による個に応じた指導を更に工夫改善したり、学習支援ボランティアを活用したりすることによって、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着や、思考力・判断力、表現力等の一層の向上を図ることができるであろう。 教科担任制を拡充することによって、教師の専門性や得意分野を生かすことができ、教材開発や評価等に関する研究をより深めることができるであろう。 評価規準や、学習状況の確実な見取り方、評価を生かした指導を工夫改善することによって、より効果的な個に応じた指導が可能となるであろう。</p> <p>* 第1年次の成果と課題を踏まえた ～ までの総合的な取組によって、個に応じたきめ細かな指導が充実し、確かな学力の向上を図ることができるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>個に応じた指導のための教材開発とその工夫改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思考力・判断力や表現力を高めるための工夫等</li> </ul> <p>個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善</p> <p>ア 少人数による個に応じた指導の工夫改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 算数科を中心に、少人数による個に応じた指導の在り方について研究する。</li> </ul> <p>1年 非常勤講師を含めた2名または3名の教師による協力的な指導 2～5年 ティーム・ティーチングと学級の枠を外した2学級を3コースとする少人数指導</p> <p>単元や学習内容に応じて実施</p> <p>イ 教科担任制の工夫改善</p> <p>ウ 学習支援ボランティアの活用</p> <p>評価方法の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 評価規準の活用と改善</li> <li>・ 評価方法の工夫改善（評価補助簿の活用と改善等）</li> <li>・ 評価を生かした指導の在り方の工夫改善</li> </ul> <p>変更点 少人数による個に応じた指導の工夫改善について 実施学年の拡大を図り、ティーム・ティーチングと少人数指導を学習内容に応じて実施するようにした点。</p>
--------	---

平成16年度	<p>主題 個に応じた指導方法・指導体制・指導内容の工夫改善 ～ 「わかった、できた、楽しい」が実感できる、 確かな学力を身に付けた児童の育成～</p> <p>研究の見通し（仮説） 学習のねらいを明らかにし、児童の実態に合った教材を工夫・改善することにより、個に応じた指導が充実し、学力の向上を図ることができるであろう。 発達段階や教科・単元の内容に応じた少人数による指導と教科担任制を充実することにより、基礎的・基本的な内容の確実な定着や、思考力・判断力、表現力等の一層の向上を図ることができるであろう。 評価規準や、学習状況の確実な見取り方、評価を生かした指導を工夫改善することによって、個に応じたよりきめ細やかな指導が可能となるであろう。</p>
--------	--

\* 第1年次・2年次の成果と課題を踏まえた ～ までの総合的な取組によって、個に応じたきめ細かな指導が充実し、確かな学力の向上を図ることができるであろう。

研究内容・方法

- 個に応じた指導のための教材開発とその工夫改善
  - ・ 問題解決能力を育成するための工夫等
- 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善

ア 少人数による個に応じた指導の工夫改善

イ 教科担任制の工夫改善

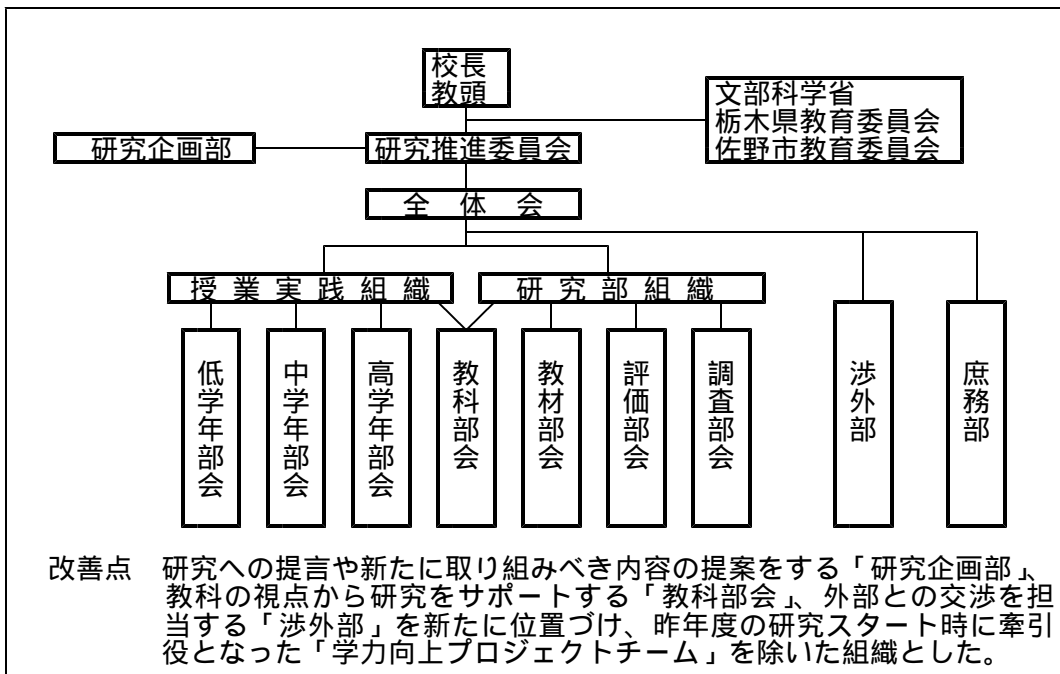
ウ 学習支援ボランティアの活用

評価方法の工夫

- ・ 評価規準の活用と改善
- ・ 評価方法の工夫改善（ノート指導と自己評価の改善等）
- ・ 評価を生かした指導の在り方の工夫改善

変更点 15年度までの研究の成果と課題から、仮説を修正し、研究内容の評価方法の工夫改善の部分を修正した。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- ・ 児童に身近な課題を用意したり、思考を助ける作業用紙やつまづきを予想したヒントカードを開発することで、児童は筋道を立てて考え、見通しをもって課題を解決できるようになってきた。
- ・ 単元の内容や児童の実態によって、チームティーチングや少人数指導のグループ編成等を工夫したことで、個々の児童の意欲が高まり、補充的な学習や発展的な学習も効果的に学習することができた。児童への調査によると、少人数によるコース別の学習の方がやる気があると答えた者が、昨年度の44.3%から、56.6%と増えている。
- ・ 教科担任制の実施により、教師の得意分野が生かされるとともに、教材研究の時間が確保できた。また、児童を多面的に見ることができそのよさを授業で生かすことができた。
- ・ 評価規準を明確にして学習活動を計画し、児童の活動が記されたノートや児童の自己評価によって、児童のつまづきや願いを見取ることができ、個に応じた指導に生かすことができた。

## 2. 今後の課題

- ・ 数と計算以外の領域の思考力・判断力、問題解決能力を育成するための教材の質を高め、特に発展的な学習に関しての教材開発を進める必要がある。
- ・ 学年の発達段階を考慮して、全ての学年でより効果的なチームティーチングや少人数指導ができるようにし、少人数指導と教科担任制の2つの指導体制の効果がより生かされるような、時間割の組み方と教師専門性が生かされる指導教科の選定を工夫する必要がある。
- ・ 評価の客観性や妥当性、評価に対する信頼性をより高めるために、評価規準やノートの表記、自己評価の方法に関する研究を更に進めていく必要がある。

### 学力等把握のための学校としての取組

- 1 児童の実態調査
  - (1) 算数科の学期末テストによる評価、分析（年3回・学期末）  
観点別に度数分布を作成し、学習の定着を確認して、指導に生かす。
  - (2) 算数科のIEAテストによる評価、分析（年1回学年末）  
前年度との比較し、児童の変容を確認と指導への活用を図る
  - (3) 標準学力テストによる評価（年1回、学年末）  
前年度との比較し、学習の定着を確認し、指導に生かす。

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 公開授業研究会  
平成16年2月13日(金) 13:40～16:00 佐野市立植野小学校  
参加者(予定) 佐野市内各小中学校教員、学校評議員 計65名  
フロンティアスクールとしての実践の発表と情報交換
- ・ 学校新聞、学年たよりによる実践内容の広報

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
                                  13～18学級                     19～24学級  
                                  25学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  一部教科担任制                 その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       算数                       理科  
                                  生活                       音楽                       図画工作                 家庭  
                                  体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有                       無